電子ジャーナルを利用して

藤 田 昌 久*

日本医科大学付属病院看護部

昨今医学のみならず看護領域においても EBM (Evidence-Based Medicine) に基づくケアの選択や、現行の方法を見直すなど、専門領域において古く長く伝承的に行なわれてきたことが少しずつではありますが確実に変化をしてきている事実があります。

現在私は感染管理を専門領域として院内で活動していますが、まさに EBM に基づいた正しい、説得力のある情報が必要とされています。したがって日常的に仕事の中において、日々情報収集に時間をかけることは重要なことであると実感しています。

感染管理（院内感染における予防、発生時の対応、サーベイランス、教育、相談など）を行なっていくうえで、最近特に感じることは、CDC（米国疾病予防管理センター）などから配信される様々なガイドラインなど、特に根拠に基づいた膨大な研究から導き出された感染防止上の勧告が広く活用され、感染防止対策に活用されるようになったことです。

勧告内容は非常に信頼性が高く、一般的には勧告内容にしたがって各施設においてマニュアルや実際の対策に活用されるとしても、時にはそうした根拠となっている研究を参考にすることも必要となります。

医師をはじめ他の職種の方とのかわりも増え、問題提起やすすめようとしている改善策などについては、背景となる現場の状況を対比するためや、詳細な研究データなどの添付も必要とすることもあるため、先行研究の状況や、研究報告がされているある種のテーマに沿った内容の検索など情報の必要性が高まります。

図書館の活用は以前であればそれほど多くもなく、学会などの研究の機会に年1回ほど活用するのが通常でした。そのように情報・文献を必要とするようなことも少なかった現状はありますが、最近では当然図書館へ足を運び、雑誌記事をはじめとした情報収集には非常に時間

を費やすことが多くなりました。

最近1～2年は図書館の活用の機会も多くなり、改めて文献活用の必要性和情報収集の難しさを感じています。自分がより様々な情報を必要とするようになってきたのも事実ですが、情報の取り方活用の方法は以前とはだいぶ様変わりしてきたように感じます。以前であれば文献の検索方法がよくわからずに分野に関連した書棚に足を運びひたすら本を探していたように思います。図書館の方に色々聞こうと思いながらもそのまま書棚とにらめっこの状態でありました。自分の不勉強もさることながら普段から利用していないとなかなか聞くことにも抵抗があり、非常に無駄な時間を費やしていたなと感じます。

しかし最近では電子ジャーナルを徐々に活用するようになってきました。

はじめは学会発表を目的とした看護研究を行う際に、先行研究の検索から始めようと医師から検索の方法を聞きながら、見よう見まねで始めたことがきっかけでした。慣れないこともあり非常に四苦八苦した覚えがありますが、使用してみると迅速かつ明確に様々な情報をかんたんに得ることができ、非常に活用性が高いものだ実感しました。しかしながら様々な検索機能や電子ジャーナルが持つ冊子とは違う様々な特質については知る由もなく使用機会は多くはありませんでした。

そうした中当大学図書館においてここ数年における図書館の看護分野の充実とともに、最近1～2年の間に図書館の方から看護部に対して電子ジャーナルの活用をサポートしていただける講習の機会を2回ほど頂きました。非常に有用な機会であり、こうした機会をきっかけに現在広く使用（活用）をしている状況です。

看護師の研究にかかわる機会や日々の仕事から情報の検索を行なう機会の増加は確実に多くなっています。またパソコンの普及もあり、こうした機会を作っていただけることは、あまり機会のなかった看護師に対しては画期的に情報収集の機会と方法と豊富な情報の供給がなされるものであり、個人的にはさらに多くの機会を頂きた

*Masahisa FUJITA：〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5.

(2003年8月8日 受理)

いと思います。

まだまだ使いこなしているといった状態ではありませんが、忙しい仕事の状況からは当然のことながら図書館に足を運ぶ機会は限られてきます。

そこで電子ジャーナルを活用する上でその特徴を理解し、今現在活用する意味を感じていることは以下のようなことです。

- ①時間に関係なく利用できる
- ②机の上からいつでもアクセスできる
- ③雑誌や記事よりも早く論文や記事を見ることができる
- ④検索機能が多彩である（全文検索など）
- ⑤関連情報へのリンク機能がある
- ⑥検索に費やす時間の短縮と情報の漏れがない

個人的には機能を上手く活用することや英文での文献の読解など、使用に当たっての多くの課題はありますが、今現在行なっている感染管理に関する仕事を含め、一般的に新しい情報の検索と根拠に基づいた内容はとりわけ現在の医療においては必須要件です。今後はますます活用度は高くなるとともに機能や利用体系（利用方法や料金体系など）の充実が図られてくることと思います。

ここ数年の電子ジャーナルの普及をきっかけにこの1年くらいは以前のように図書館の利用する機会が少なくなってきたのは事実です。しかしながら利用に関するサポート（情報の配信や講習の機会など）の充実と利用者側のニーズがさらに深まれば電子化の中でのよい信頼関係が築かれるものと思います。